

令和4年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校 定時制)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 基本的生活習慣の確立と基礎学力、技能の定着を図る 2 地域社会や家庭との連携を推進する 3 生徒一人ひとりの個性に応じた進路実現を目指す
------	------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価				
年度目標					年度評価(2月1日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・多様な生徒が在籍している。授業に集中し学習に取り組ませる指導を行っている。落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。 【課題】 ・授業や部活動等、学校活動に自主的に取り組む態度を育成する必要がある。 ・多様な生徒に対応した教育課程の編成及び観点別学習評価を実践する必要がある。	・基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着及び指導力の向上と学習環境の整備 ・今年度年次進行で試行される新教育課程の実践及び観点別学習評価の実践と検討	①校内巡回、登下校の教職員当番表を作成し、教職員全員が共通理解し、落ち着いて学習活動に取り組めるよう整備する。 ②ICT機器やアクティブラーニングを活用し、生徒の興味・関心を高める授業を実践する。 ③多文化共生推進員及び学習サポーターの効果的な活用で多様化する生徒の支援を行い、教員に情報共有する。 ①新教育課程及び観点別学習評価の実践して研究する。	①学校生活・態度など学習規律の定着度合をアンケート、管理職面談等で確認する。 ②アンケート結果から学習意欲・理解度等が向上したか。 ③多文化共生推進員、学習サポーター等と教職員が面談を行い、共通理解し、支援が図れたか。 ①今年度の成果と課題をまとめ、全教職員で共通理解できたか。	①レポート、提出物の期限を守って提出した割合は減少した。(R3.84.8%→R4.78.5%) ②学校満足度については7割以上が肯定的であった。(R3.84.8%→R4.73.1%)、スクリーンを使用した授業の理解度は高い割合になっている(R3.91.3%→R4.88.2%) ③多文化共生推進員(週2~3回・4時間)学習サポーター3人(週2~3回・2~4時間)の活用により、生徒の授業理解が向上し、大きな学習支援となった。 ④今年度から実施した観点別学習評価では研修会を通して概ね共通理解が得られた。	B	①教職員の日々の粘り強い指導で基本的生活習慣が定着してきている。引き続き指導していく。 ②ICT機器の活用した授業は定着した。次年度は1人一台端末を効果的に活用した授業づくりの研修会を実施する。 ③多文化共生推進員や学習サポーターと教員間の連携をより密にし、引き続き生徒理解に努めながら学習支援を行う。 ④観点別学習評価について、引き続き研修会を開催し、検証を続ける必要がある。	令和5年2月2日	・無断遅刻、欠席が減少してきていることは、先生方の日頃の指導の賜物である。 ・日本語を母国語としていない生徒の指導を多文化共生推進員と協力して行っていることはたいへんよい。 ・次年度も引き続き観点別学習評価の研修を実施していく方向である。
2	【現状】 ・HP等を活用し情報発信を行い、学校評価懇話会において保護者・生徒との意見交換等を実施している。 ・外部の教育機関との連携を積極的に実施している。 【課題】 ・コロナ禍で実施可能な教育活動の充実を図り、多くの保護者や外部の方々に教育活動をご覧いただけるよう周知し理解を得る必要がある。	・HP等の情報発信 ・コロナ禍で実施可能な教育活動等の運営及び開かれた学校づくり	①新聞等を効果的に活用して外部発信する。 ②学校教育活動を工夫した内容でHPに掲載する。 ③学校評議員会や学校評価懇話会の意見を活用する。 ②SSW、SC、外部の専門機関との連携を図り、より積極的に活用する。 ③各教科委員会と共通理解の下教育活動を運営する。	①新聞等による外部発信の回数が増加したか。 ②アクセス数を増やすことができたか。 ①本年度のまとめをし、次年度に活用できたか。 ②外部の専門機関との連携回数、生徒・保護者の相談回数が増加したか。 ③コロナ禍で実施可能な教育活動が行えたか。	①②新聞掲載・TV放映はできなかったが、HPに写真や生徒たちの声を多く掲載し、給食室のHPをリニューアルしたことでHPのアクセス数は増加した。 ③学校自己評価システムシートや管理職自己評価シートに課題を掲載し、課題解決に努めた。 ④SSW、SCを経由した外部機関との連携では、市役所等を交えてのケース会議を開くなど生徒達の心身のケアをした。 ⑤新型コロナ感染状況を注視しつつ、工夫しながら各行事を開催した。	B	①HP担当者を決めるなどして、より迅速に効率よく多くの記事を掲載できるよう工夫する。 ②次年度は、新型コロナ感染状況を注視しつつ、学校行事等について保護者等の参加を促進していきたい。 ④外部機関との連携は、年々深まっており、生徒達の心身のケアに活かされている。 ⑤さらに教育活動を充実させる。		・今年度は、新聞記事掲載やテレビの放映がなかったため、来年度はメディアに掲載して、川越工業定時制をアピールしてほしい。 ・教育相談がよく機能している。親として、悩み事を相談できるのはありがたい。 ・次年度はコロナ禍が落ち着き、通常の学校教育活動に戻ってほしい。
3	【現状】 ・卒業後の進路を定められていない生徒が見受けられ、粘り強い指導が続けられている。 ・多様な個性を持つ生徒の支援を組織的に実施している。 【課題】 ・これまでの成果を踏まえ、各年次、各分掌、各委員会等で連携し、卒業後自立した社会人として活躍できるよう生徒を支援・指導する。	・規律ある生活態度の育成とともに多様な生徒の状況の理解と支援 ・各組織間で連携した組織的な生徒の卒業後の自立支援指導方法の構築	①挨拶運動(登下校)を実施し、時間を守る等規律ある態度が取れるよう生徒の育成を目指し、教育活動を行う。 ②年次、生徒指導部、特別教育推進委員会を中心に、多様な生徒の情報共有、理解、支援を行う。 ①LHRや放課後等を利用して校内外の進路説明会を実践し、就職支援アドバイザーを活用した進路指導の実現を行う。	①出席率が向上したか。規律ある授業が展開できたか。 遅刻者数が減少したか。 ②職員会議・打合せ等で教職員が情報共有して、理解・支援を図れたか。 ①就職未定者数の減少ができたか。アンケート結果から生徒の第一志望の進路実現ができたか。	①年間出席率(R3.90.1%→R4.84.3%)は若干減少し、年間遅刻率は(R3.4.7%→R4.5.4%)で若干増加しているが、集会時にも遅刻することなく集合できており、時間を守る意識が確立しつつある。 ②多様な生徒の情報を企画委員会の場で各分掌で共有し、職員会議の場で全教職員に情報提供できた。 ③進路指導部・4年次生担任を中心に進路ガイダンスや研修会などを実施し、生徒の希望に沿った進路指導・相談をきめ細かく行った。進路状況は21名中就職内定10名、専門学校5名、高等技術専門学校1名。	A	①授業開始前にSHRを導入したことが、生徒の授業に取り組む意識の醸成に繋がり、基本的生活習慣・授業規律が確立し、落ち着いた雰囲気の中で授業が開始されている。今後も継続する。 ②課題のある生徒の情報を特別支援教育推進委員会を中心に共有し、教職員全体で対応していく。 ③就職支援アドバイザー、進路指導部と各学年が連携し、系統的なキャリア教育を次年度も継続していきたい。		・SHRの導入は、時間を守ることの意識付けと日々の生徒の様子を観察するには大変効果的であった。 ・夜遅くまで進路相談してくれて感謝している。 ・進路指導部・4年次担任団・就職支援アドバイザーとの連携がとてもよく、生徒一人ひとりの進路実現に寄与している。

